

第一回人口問題全國協議會プログラム

主催

財團法人
人口問題
研究會



(以印刷代謄寫)

目次

一、日程

一、研究報告會プログラム

一、研究報告要旨

一、出席者名簿

日 程

一、場 所 東京市神田區一橋通町一丁目一番地 一橋講堂及如水會館

一、日 時 昭和十二年十一月四日、五日 午前九時

一、日 程

(一) 十一月四日 午前九時——正午

總 會

(イ) 會長開會ノ辭

(ロ) 內閣總理大臣祝辭

(ハ) 內務大臣祝辭

(ニ) 幹事報告

(ホ) 政府諮問事項ノ説明

(二) 十一月四日 正午

內務大臣招待午餐會（學士會館）

(三) 十一月四日 午後一時—五時

研究報告會及各種特別委員會

(四) 十一月四日 午後六時（一橋講堂）

第一回人口問題全國協議會開催記念人口問題講演會

(五) 十一月五日 午前九時—正午

(イ) 研究報告會

(ロ) 各種特別委員會

(六) 十一月五日 正午

本會招待午餐會（如水會館）

(七) 十一月五日 午後一時—五時

總會

(イ) 研究報告會ニ關スル座長報告

(ロ) 政府諮問ニ對スル答申ノ議決

(ハ) 會長閉會ノ辭

(八) 十一月五日 午後六時

本會招待晚餐會(如水會館)

第一回人口問題全國協議會開催記念人口問題講演會

日時 十一月四日 午後六時
會場 神田區一橋通町一丁目一番地

一橋講堂

開會の辭

傳染病の地理的分布と國民保健問題

現下の經濟問題と人口

滿洲移民の問題

一九三七年巴里國際人口會議に列して

會長 侯爵

東京帝國大學教授
醫學博士

高橋經濟研究所長

貴族院議員 男爵

本會常務理事

佐佐木

田宮

高橋

大藏

井上

行

猛

龜

公

雅

忠氏

夫氏

吉氏

望氏

二氏

以

上

十一月五日 午前

(10) 自然民族に於ける人口問題

(11) 徳川時代以前の人口の歴史的研究の困難

(12) 北支の人口に就て

(13) 維新前の人口調査に關する諸問題

(14) 我國人口分散の問題

(15) 未定

(16) 明治初年の人口論者

第二部 都市並に農村人口問題

十一月四日 午後

(1) 十八世紀前後の都鄙人口周流觀

(2) 都市人口の更新

東京帝國大學
文學部 囑託

中央社會事業
協會 研究員

宇都宮高等農林學校
教授

東京市電氣局
庶務課

東京市統計課

東京文理科學
助教授

小山 榮三氏

高橋 梵仙氏

高須 虎六氏

徳田 彦安氏

豊浦 淺吉氏

内田 寛一氏

吉田 秀夫氏

京帝國大學
經濟學部 副手

東京帝國大學
文學部 講師

青盛 和雄氏

林 惠海氏

(3) 向都離村人口の統計的測定

(4) 人口再分布技術としての都市計畫の能力限界

(5) 農村人口流出に就て

(6) 都市及農村人口問題の一考察

十一月五日 午 前

(7) 未 定

(8) 生態學と人口理論

(9) 季節的人口移動の二例

(1) 越後の杜氏 (2) 咸北の越境耕作

(10) 未 定

(11) 農村過剩人口對策

(12) 所謂農村勞力不足の意味

東京市政調査會

都市計畫東京
地方委員會技師

東京帝國大學
農學部講師

猪 間 驥 一氏

石 川 榮 耀氏

神 谷 慶 治氏

中 澤 辨 次 郎氏

東京帝國大學
農學部助教授

野 間 海 造氏

東京市文書課

清 水 達 夫氏

東京高等師範學校
教 授

武 見 芳 二氏

東北帝國大學
法文學部講師

田 中 館 秀 三氏

農村振興會
理事 會長

上 村 藤 若氏

東京帝國大學
經濟學部助教授

渡 邊 信 一氏

第三部 人口と産業の發展に關する問題

十一月四日 午後

(1) 農業の展開と人口支持力の動向

帝國農會 青鹿四郎氏

(2) 未定

企畫院調査官 井口東輔氏

(3) 商業勞働人口

企畫院囑託 稻葉秀三氏

(4) 内地に於ける食糧資源開發の新しき方策に就いて

賀川豐彦氏

(5) 勞働人口の構成

大阪市社會部 川上賢叟氏

(6) イギリス戰時に於ける勞働統制

企畫院囑託 川崎已三郎氏

十一月五日 午前

(7) 資本關係より見たる人口支持力

三菱經濟研究所 前田昭氏

(8) 最近に於ける勞働市場

企畫院調査官 美濃口時次郎氏

(9) 未定

東京商科大學助教授 小田橋貞壽氏

(10) 人口問題と生計費

(11) 人口膨脹と産業發展との相互關係と其限界

(12) 生産力擴充と農村勞力

第四部 移植民問題

十一月四日 午後

(1) 滿洲は幾何の日本人を吸收し得たか

(2) 日本移民の國際的意義

(3) 人口と植民地問題

(4) 國民教育としての移植民の基礎訓練

(5) 移植地政策に就て

(6) 内地在住朝鮮人に就て

(7) 大阪府下在住朝鮮人問題と其對策の概況

經濟學博士
彦根高等商業學校教授

經濟學博士
法政大學教授

企畫院囑託

八

岡崎文規氏

高木友三郎氏

山本鉞治氏

拓殖大學教授

早稻田大學教授

日本女子大學教授

大東文化學院教授

神戸商業大學教授

社會局囑託

大阪府社會課

阿部源一氏

出井盛之氏

市村今朝藏氏

加藤梅四郎氏

金田近二氏

佐々木行雄氏

賀來才二郎氏

十一月五日 午前

(8) 移住青年指導の報告

(9) 南洋特に比律賓に於ける邦人移民問題
——二世教育問題を中心として——

(10) 植民地再分割問題

(11) フェルナン・モウレット氏の觀たる「ブラジルの人口、經濟、移民問題」紹介並批判

(12) 滿洲移民地の地理學的諸問題

(13) 滿洲移民の基礎的調査研究

第五部 國民保健問題

十一月四日 午後

(1) 精神衛生對策

(2) スポーツと國民体位の向上

全國學農聯盟 木内謙一氏

九州帝國大學 三田村一郎氏

外務省調查課 小田部謙一氏

日伯中央協會 岡本和夫氏

南滿洲鐵道會社 田口稔氏

南滿洲鐵道會社 善生永助氏

內務技師 青木延春氏
大阪朝日新聞社員 藤田進一郎氏

(3) 國民保健問題中遺傳と環境

(4) 兒童及少年に及ぼしたる世界大戰の影響

(5) 榮養と國民保健

(6) 商業階級と保健問題

(7) 市部と郡部に於ける年齢別性別結核死亡率の差異に就て

(8) 農村結核と戦後の豫想

(9) 勞働階級の疾病檢診に於ける感想

(10) 乳兒死亡の調査の結果に行動性を附與する方法に就て

(11) 榮養が動物の繁殖に及ぼす影響に就いて

十一月五日 午前

(11) 我國民の死亡原因

(12) 保健國策としての健康保險制度

(13) 我國の疾病統計に現れた罹病率に就て

陸軍中將 橋本勝太郎氏
東京私設社會事業聯盟理事長

社會局囑託 早崎八洲氏

醫學博士 榮養研究所技師 原徹一氏

商學博士 日本大學教授 井上貞藏氏

大阪帝國大學醫學部教授 梶原三郎氏

金澤醫科大學教授 古屋芳雄氏

勞働者診療所長 馬島佃氏

大阪帝國大學醫學部助手 丸山博氏

榮養研究所 松室秀夫氏

醫學博士 內務技師 南崎雄七氏

社會局技師 長瀬恒藏氏

內閣統計局 中山照夫氏

- (14) 日本人の勞働壽命に就て
- (15) 産兒制限と保健
- (16) 結核症の概念に錯誤なきや
- (17) 本邦勞働人口の推移
- (18) 榮養と妊産の關係
- (19) 乳幼兒保健問題
- (20) 未定
- (21) 戦争と結核
- (22) 犯罪者の研究

醫學博士	社會學博士	早稻田大學教授	東京市技術師	東京帝國大學醫學部講師	社會學博士	醫學博士	醫學博士	醫學博士	醫學博士	醫學博士	醫學博士	衛生局豫防課長	東京帝國大學醫學部講師
西野陸夫氏	西野陸夫氏	西野入徳氏	岡治道氏	大西清治氏	佐伯矩氏	齋藤潔氏	杉本好一氏	高野六郎氏	吉益脩夫氏				

以上

研究報告要旨

(A、B、C順)

植民地及資源問題の對策

拓殖大學教授

阿部源一氏

一、植民地は果して幾何の價值があるかを吟味する。

二、植民地及資源開放に關して如何なる對策が唱へられて居るか、而して其等の諸方策のうち孰れが最も妥當であるかを論ず。

十八世紀前後の都鄙人口周流觀

京都帝國大學經濟學部副手

青盛和雄氏

十七世紀後半一六六一年乃至一七六一年の十八世紀中葉に及ぶ約百年間に於て、英國人グロントより獨逸人ジュースミルヒに至る一聯の所謂政治算術學派の人々の殆んど相一致せる見解として述べられたる「都市人口は絶えず死滅し、農村よりの來住に依つてのみ、都市人口の存續更新は可能である」との命題を逐次に紹介し、其際に於て使

用せる人口統計資料の吟味を問題とするのがこの報告の主要目的である。

猶委細に述べれば、この時代の學者は専ら人口動態の觀察に基いて立論し、其論據とする所は、

(第一) 都市に於ては死亡に對する出生超過なきにも拘らず常に人口増加の存在せる事實に重點を置いてゐるのである。

(第二) 都市人口死滅の理由としては死亡多くして出産少きを例證せるに過ぎない。

(第三) 農民來住に依る都市人口の補填は何等證明せられる事なく、單に自明の事項として取扱はれた。

其後センサス施行されてより人口靜態觀察への過信を招來し今日に至る迄移住統計の缺除を餘儀なくされ、從つて都鄙間の人口周流が具体的に把握されず、其故に國內人口安住政策の講ぜられる地盤への認識不足を指摘する所以がある譯である。

スポーツと國民体位の向上

大阪朝日新聞社論說委員 藤田進一郎氏

一、スポーツの目的は、大衆の體育に資し、その健康を増進するにある。

二、然るに現代のスポーツは次の三點において、右の本來の目的に反馳する傾向を示しつゝある。

(イ) スポーツの記録本位化

(ロ) スポーツの觀衆本位化(近年アメリカにおいては各種スポーツの觀衆のみが激増する割合に、スポーツ用品の賣上高が減少しつゝあるさうである)

(ハ) スポーツの技術本位化

三、これをスポーツ本來の目的に引戻し、國民一般の體位向上に資せんがためには、

仕事の合間、餘暇、公休日、休暇日などを利用して老若男女の別なくスポーツし得るやうな遊技場、運動場體育場の思ひきつた増設が第一義的に必要である。

國民保健問題中遺傳と環境

陸軍中將
東京私設社會事業聯盟理事長

橋本勝太郎氏

本員は茲に此遺傳と環境問題に對し報告することは、聊か僭越の誹あることを自ら期して居るが、實は、本員は不良少年の感化事業に携はること茲に、十數年間に千數百名の犯罪少年を收容して、矯化に従事したる印象に依れば、彼等は一様に一種特異の性格を有するもの、如くに見受けられるのである。抑も彼等の犯罪の原因が素質にあるか、又は多數論者の云ふ如く、全く環境に依存するかの問題を科學的に研究し、又其矯化法をも案出し加之實際矯化の不能又然らざるも其難易並に其の對策等を實踐的に嘗試して、之を(世に)發表せんとの野望を懷きて蹶起した。それが爲に精神病學者、心理學者、教育學者等を聘して、此等少年の家系の病的負因から詳細に調査せしめしに、果せるかな犯罪少年五十名中病的負因の全く發見し得ざるものは、僅に二名他の二名は單に胚種毀損と母の妊娠中の病氣

を見出すに過ぎなかつた、然れども是等のものも更に一層深く追究せば、尙何等かの病的負因を發見し得たるならんも知れぬ。又一名は家系が全然不詳であつた、此調査の中には遺傳關係著しく濃厚であるものを認むるに至れり。

右五十名の犯罪少年も精神病學の立場より分類すれば、病的性格（所謂變質者、限界者、中間者とも云ふ）が大部分を占め、其四分の三に當るところの病的性格を除いた残りは、精神薄弱者（十四％）と、稍異常なるもの（四％）及び尋常者（八％）である。病的性格者中最も多いのは意志薄弱者で、之に亞ぐものは興奮型であつた。

之を要するに、斯様な犯罪生活に陥るものゝ大部分は、精神的に異常あるもので、單なる環境的影響のみではなく（尤も環境は全部不良である）病的素質の影響を受けて犯罪に陥り、或は犯罪生活から離脱することの出來ないものが多くある。

以上の調査は、犯罪少年數僅に五十名に過ぎざるも、遺傳と環境の關係は、略ぼ推知し得るならん、尙本員は引き続き調査を遂げ精確なる統計を得んと期待して居る。然れども是れに依つて見れば、單に犯罪のみに就ても素質の遺傳關係が重要な役割をなすことは争ふ餘地なしと認む、而して犯罪防止對策の一つは、優生學的方法であつて、低格者發生の源泉を尋ね、其の出産を未然に防ぐべきことをも意味する、又之が爲めには一般に病的遺傳素質の濃厚なるものに對し、斷種の處分或は適當なる結婚統制を必要と感ずるに至れり。尙終りに臨み一言附け加へて本員が本來企圖する犯罪防止の爲めには從來久しく稱へられ來たれる環境的還元則の外、病的素質者に對しては、近來新しく叫ばれつゝある治療教育學の原理を一般教育界に普及發達せしむることの必要を、聊か茲に參考に供す。乞ふ諒せよ。

兒童及少年に及ぼしたる世界大戰の影響

社會局囑託 早崎八洲氏

世界大戰が乳幼兒、少年に及ぼしたる影響を主として身體、精神、教育の方面より國別に概説す。
統計は主として一九一四年以降の推計に據る。

向都離村人口の統計的測定

東京市政調査會 猪間驥一氏

二回の國勢調査に於ける人口の年齢別構成の變動と死亡統計とを結合することにより、都市に集中する人口、農村地方が喪ふ人口を測定すべき方法に就いて述べんとす。

商業階級と保健問題

日本大學教授 商學博士 井上貞藏氏

我國に於ける壯丁體格検査の結果を職業別に見るに、商業壯丁の體格は水産業、鑛業、交通業、農業等のそれに比

し著しく劣つてゐる。これ商業階級の就業時間、休日等に關する實情並びに商業勞働の特性が然らしむるのである。而も近時の日本産業人口分布に見るに、商業階級は其の増加夥しく人口の一大吸收層を形成しそれに屬する壯年者亦激増しつゝある。

従つて商業階級の保健問題は實に商業當事者の問題たるに止まらず、廣く日本國家の重要問題として考察されねばならぬ。之が對策としては多數商業階級の保護立法たる商店法の制定等に俟つべきものと思ふ。

明治年間における日本人口の地域的變化

東京商科大學豫科教授 石田龍次郎氏

地理學の立場よりは人口は地域的變化、場所的前後を究めることが問題となる、今その第一段として行政的單位(郡)による變化をみる

	年平均 全國人口増加	著増郡數	増加郡數	相對的及絶對的 減少郡數
I 明治十一—二十一年	七・九‰	一〇八	一一九	二八
II 明治二十一—三十一年	九・九	三四	五三	七二
III 明治三十一—大正二年	一三・〇	一九	一六	五七

(註) 右の郡別人口増加率は主として農村のそれを見ん爲に人口一萬以上の都市人口は除いてある。

ⅠⅡの著増は主として東北地方に於いて見られる、東北地方の歴史的地理的狀態と明治前期の勸農政策の效果、Ⅲに於いては農村人口の全體的増加は見られない——産業革命の進行。減少はⅠに少く、Ⅱでは富山——名古屋以西、中國四國までに多くⅢでは北陸、近畿の一部、中國山地等である。

都市の發達を地域的に見る爲に人口五萬を越した都市の數を年代的にみると

		明治以前	産業革命前まで(明治三十一年)		歐洲大戰の終り(昭和十年)		總計	都市人口	總人口との比
東北、裏日本、中部山地	二	二	四	一一	一九	一六七萬	一〇・三%		
關東、東海、近畿、瀬戸内、北九州	六	六	一三	三〇	五五	一七九六	四〇・五		
紀州・裏四國、南九州	一	二	〇	三	六	六八	一三・四		

(註) 地域の分け方は官府統計區に従はず、郡を單位として地理的考慮の上からきめた。

人口再分布技術として都市計畫の能力限界

都市計畫東京地方委員會技師 石川榮耀氏

近代都市計畫の主題目は結局人口再分布の問題である。

都市内部に對しては、地域制(特に密度地域)土地區劃整理、郊外交通機關の整備等が試みられ、農村(或は地方)との關係に於ては田園都市、地方計畫、國土計畫等が提唱研究されつゝある。

然し結局に於て、實効に於ては世界的に顯著なるものがない。ただこゝにナチス獨逸及蘇聯邦が、重壓政治により幾分なりとも的一步前進を示しつゝある如くである。若し少くも此の獨逸の例を（蘇聯は明かでない）正しと見るならば、少くも本邦都市計畫は何をなさなければならぬか。今後の都市計畫の興味はそこにあると思ふ。と同時に現在の都市計畫の能力限界もそこに確認されるかも知れない。

日本移民の國際的意義

早稻田大學教授・出 井 盛 之 氏

近年世界人口移動量に激減が起つたのは、次の三大原因に主として依つて居る。即ち（一）一九二四年合衆國移民法（二）一九二七年以降伊太利政府の移出民抑制策（三）一九三〇年以來の世界大不況、これである。

しかるに、日本民族の國際移動は依然として活潑に繼續されて來た。猶太民族のバラストイン移住と、大戦亂並に社會革命による Refugees の移住運動と共に日本移民は世界の注目を集めてゐる。

日本移民運動の活潑なるは、政府の奨励策と比較的過少人口地帯に接近せる爲めによるのであるが、その移民方法は一向に舊態を脱してゐない。（一）移出民に對する無用の制限と。（二）集團的契約移民の二事實は低位の「アジヤ」的標準以上でないことを示すものである。

市部と郡部に於ける年齢別性別結核死亡率の差異について

大阪帝國大學醫學部教授 梶原三郎氏

大正九年より昭和六年に至る十二年間に於ける、本邦内地に就ての年齢別性別結核死亡率を地方別（人口十萬以上の都市と其の他市町村）に整理してみた所、兩者の間に特異な差異のあることを發見した。其の主なる差異は大都市に於ける男性年齢別死亡率の曲線は二つの山を現はしてゐる、一つは二十歳附近に頂點を有し次の山は五〇—五九歳の附近にある、そして其の高さは兩者略ぼ等しい。大都市以外の地域については、二〇—二四歳の年齢階級に於て死亡率の最高が認められるのみである。女性については此の差異はあまり顯著ではない。

ニュウヨーク市での同様な曲線では死亡率の山は一つであつて四〇—四四歳階級にある。此の差異について考へられる所を述べ度い。

尙ほ性別年齢別結核死亡率の年次の變遷についてのグラフによつても、人口移動と結核との關係に考慮を延ばしてみたい。

大阪府下在住朝鮮人問題と其對策の概況

大阪府社會課 賀來才二郎氏

一、大阪府下在住朝鮮人數は昭和十一年末既に貳拾參萬餘人に達し、最近増加數を稍減少せるも尙二萬人前後を増加

し、自然増加のみにも七、八千人に及ぶ、然し世帯を構成居住するもの増加し、男女の比率は一〇對七程度に達し漸次定住するの傾向あるも尙、多數の獨身者あり移動性多し、在住者の約九割は筋肉勞働に従事し土工三萬諸工場勞働者五萬、其他二萬の割合にしては賃銀は内地人に比し稍低率なり、而して之等在住者は概ね低級且特異なる習俗生活を保持して密住し、男の三分の一女の三分の二は内地語に習熟せず總數の五分の三は無學文盲にして道徳性低く、犯罪率亦高率なる爲内地人との精神的阻隔甚しきものあり。

二、現状の儘放置するときは、現在の實情のまま、固定し一層内地人との精神的阻隔の實情を強化するの憂あるのみならず延いては、高度なる文化集團地域が低級なる集團の爲に常に不安を感じしめらるに至る虞あり、殊に非常災害時に於ける、斯る集團の存在は最も注意を必要とするものあり、將來の勞働資源としての在住者の問題と併せ考ふれば、速に之が對策の確立と普及徹底を圖るの要あるを痛感するものなり。

三、茲に鑑み、大阪府に於ては昭和九年、内鮮融和事業調査會を設置し對策を研究し大綱を確立實施しつつあり、之が根基は在住者の内地化即ち同化政策の徹底を圖るにあり、之が爲に、新規渡航の制限、行政機構の確立、教育の徹底、生活改善、風俗改善の徹底(矯風事業の普及徹底)等の事業を實施中にして效果漸く見るべきものあり。

移住地政策に就て

神戸商業大學助教授 金 田 近 二氏

一、移住の形態………集團移住と分散移住

一、集團移住の利害得失

一、結 論

國民教育としての移殖民の基礎訓練

大東文化學院教授 加藤梅四郎氏

人口一億に垂んとする我島帝國國民の海外發展は國家經濟生活問題思想問題に關し必要欠くべからざる重大問題なるに我國民は移殖民訓練不十分なる點あるを認め國民教育の一部として之が充實に付攻究せんとす。

勞働人口の構成

大阪市社會部 川上賢叟氏

吾々は茲に暫らく大阪市に於ける勞働人口の構成を眺めやうと思ふ。先づ男女別に見れば大正九年、大正十四年、昭和五年、昭和十年に於て夫々女一〇〇に對し男は一一二・六、一一三・四、一一三・四、一一四・二、と僅少づゝではあるが、男の數が女の數に比して増加する傾向にある。この増加が如何なる年齡階級層に於て生起せるかは、こ

一、二、三年の國勢調査が施行せられなければ適確には見られ得ないが、現在のところでは、大正十四年と昭和五年とを比較する場合減少せる年齢は〇―四歳、五―九歳、二五―二九歳、三〇―三九歳、五〇―五四歳、六〇―六四歳、七〇歳以上の各年齢階級でありその他は増加を示してゐる。即ち一〇歳以上二四歳の青少年年齢階級に於て、男が増加せる事實は注意さるべきである。

次に各年齢階級別に人口數を見れば、大都會の通有性としてピラミット型ではなく、一度一五歳乃至二四歳の層に於て膨れてゐることが指摘せられる。

次に勞働人口を算出すれば、大正九年に於て總人口に占める割合は男五割四厘六毛、女一割八分四厘一毛なりしに對し昭和五年は男四割七分七厘六毛、女一割六分二厘二毛となり、男二七分七厘、女二分一厘九毛と何れも減少を示してゐる。この減少の原因は有業者全體の減少に基くものと考へらるゝものであるから、相對的に魚業者の増加に原因するものとも云へる。

出生統計に於ける解析的方法

慶應義塾大學醫學部助教授 醫學博士 川 上 理 一 氏

死亡に就ては生命表に見らるゝ如く、これを解析的に研究する道開け色々有益な知見も得られてゐる。出生に就ては未だ徹底せざるものがある。

只だ Lotka は出生に於ける母の年齢分布を考慮に置いてこれを數學的に取り扱つてゐる。演者は第 n 回出生に於ける母の年齢分布と第 $(n+1)$ 回出生に於ける母の年齢分布との關係を求めることによつて、一層精密な知見を得た。此處に始めて受胎確率が問題となり出生の問題を解析的に取り扱ひ得る。

移住青年指導の一報告

全國學農聯盟囑託 木 内 謙 一 氏

報告者は前日本高等拓殖學校助教授として前後五年間伯國アマゾナスに移住志望の青年を教導せり、又東京農業大學植民研究會々員として約十年會員と共に移植民問題につき實踐的教養をなせり。以上の經驗より得たるものを總括的に檢討報告し且つ今後の移植民教育體系につきて所信をのべむとす。

結核症の概念に錯誤なきや

東京市技師 東京帝大醫學部講師 岡 治 道 氏

一、感染年齢と發病年齢とに關する從來の考へ方に如何なる根據ありや、小兒期に人類が全部感染を了し、青春期に至て發病すると云ふ考へ方には根據がない。本邦人に就ては本邦人に於ける所見に基いて考察しなければなら

い。東京人では大体二五乃至三〇歳にして感染を了する。

二、結核再感染發病の概念の確かさ、

動物で再感染が可能であるが故に人間に於ても實際上然りと云ふ根據は得られない、疫學的觀察を必要とする。
實際上甚稀なりと考へるより外はない。

三、傳染源と被感染者との運命、

通常患者からの感染のみが重視せられ。健康體に見える菌排泄者が考慮されてゐない。結婚問題上重大な事柄である。

四、結核素質に關する考慮、

デイルの双生兒に於ての研究は此素質を確かめてゐる。然し之れを一般に推し擴めると未だ尙早である
實際上の遺傳素質は遙かに複雑であり且感染の強さを考へねばならない。又社會構成上の問題としても輕々しく
取り扱ひ得ぬところである。

自然民族に於ける人口問題

東京帝國大學文學部囑託

小山榮三氏

世界各種民地の未開民族人口減少の理由及び挽回に於ける増加傾向の理由。

乳兒死亡の調査の結果に行動性を附與する方法に就て

大阪帝國大學醫學部助手 丸 山 博氏

乳兒死亡の調査は死亡の原因を知ることにより、調査目的としての對策を樹てるものであるが、この死因統計の作製には幾多の困難と、統計の利用に思はざる不便とが常に伴ふ。この死因統計の欠陥を補ふ爲めには、むしろ最も正確で最も扱ひ易い「出産より死亡にいたるまでの生存日數」に注目するのが有利であらうと考へ「生存日數」に就いて調査し又資料を整理し、研究をした。又現在更に研究調査を續けつゝある。現在までの研究成績だけでも「生存日數と死因との關係」に於て、充分に乳兒死亡對策の行動性が求められることを實證し得たので、その研究の結果を報告し大方の批判を仰ぎたいと思ふ。

南洋特に比律賓に於ける邦人移民問題

——第二世教育問題を中心として——

九州帝國大學教授 三 田 村 一 郎氏

小官は昨年十二月より本年三月にかけて官命によつて南洋、特に比律賓、蘭印及び我が南洋委任統治領の經濟の視察

調査旅行をなし、比律賓及び内南洋の初等教育を親しく參觀するの機會を得たり。而してこゝに報告せんとするは、主として、比律賓に於ける邦人移民の二世教育の實情とその缺陷並に對策也。報告要目左の如し。

- 一、比律賓に於ける邦人移民の重要性と二世教育問題の意義
- 二、比島に於ける邦人小學校教育の實情
- 三、二世教育の根本的缺陷
- 四、二世教育の改善策

適度人口について

東京商科大學教授 中山伊知郎氏

從來の Optimum population の諸概念を吟味し、これを特に Full employment 概念との對立から考へて見たいと存じます。

我國の疾病統計に現れた罹病率に就いて

内閣統計局 中山照夫氏

我國既存の疾病統計に見ゆる罹病率には如何なるものが在るかを述べ罹病率より見たる國民保健狀態の一端に言及

し、尙國民の醫療費負擔との關係に就いても觸れて見たいと思ふ。

日本人の勞働壽命に就いて

社會局技師 醫學博士 西野陸夫氏

一、本邦職業人口に關する社會生物學の見解に就いて

(一) 數量的要素

1、人口總數

2、年齡構成

3、性別人口

4、國民の健康度

(二) 品質的要素

1、熟練

2、能率

二、本邦職業人口に於ける年齡構成に就いて

(一) 總人口

(二) 總人口と全有業者の年齡構成

(三) 農業、水産業及商業人口

(四) 鑛業、工業並びに交通業人口

(五) 公務自由業、其他の有業者並びに家事使用人に於ける人口

(六) 平均年齢の男女差

(七) 鑛業勞務者の年齢構成

(八) 工業勞務者の年齢構成

(九) 鑛業工業勞務者の就業年數

三、日本人の經濟的生産年齢

(一) 日本人の經濟的生産年齢

(二) 日本人の勞働壽命

四、總括並びに結論

産 兒 制 限 と 保 健

早稻田大學教授

西 野 入

德 氏

プラトニー、アリストートルを出し西洋文化の礎石を定めしギリシヤは産兒制限の故に亡びた。マーカスオーレリアス、シセロを産み世界帝國を建設したるローマ亦産兒制限の爲めに倒れた。ジエームスワット、エヂソンを出し驚天動地の産業革命を實現し近代世界の物質文化に對し前代未聞の一大進歩を齎し僅かの人口を以てしてよく地球全面積の九割を支配するに至りし彼白色人種は實に天下の壯觀である。併し今や彼等は殊に其西歐諸國は、早くも凋落の秋

風に見舞はれ、シペングラをして「西洋の没落」を絶叫せしむるに至り、有色人種殊に日本の勃興に對し一大不安と恐怖とを感ずるに至つた。是抑何故なるか？ 他なし彼等が産兒制限の囚となりしが爲めである。凡そ民を毒し國を亡すものにして産兒制限の如く甚しきは他にあるなし。如何に優秀なる民族と雖も一度此病魔に襲れんか終に滅亡の悲運に沈淪せざらんと欲するも能はぬ。其理由を明瞭ならしめ之が徹底的了解を得んとせば政治經濟、宗教道德、其他の諸點より極めて慎重に之を検討するの要あり、併し本報告に於ては時間の都合上單に保健の一角度のみより之を考察し産兒制限が如何に心身兩方面に有害なる獅子身中の虫にして國家を害し民族を荼毒するの甚しきかを説明し以て健全なる輿論の喚起と賢明なる人口國策の樹立とに對し何等かの貢獻を爲さんと試るに過ぎぬ。

前國際勞働局次長フェルナン・モウレット氏の觀たる「ブラジルの人口、經濟、移民問題」紹介並に批判

日伯中央協會主事 岡 本 和 夫 氏

國際勞働局ではかねてより獨逸より逐はれた猶太人、人種的鬭争の渦中に在る近東諸國人の安住地を求めざる者に對する移住斡旋を企圖しつゝあり、その最適地と認められる南米諸國のポシビリチーを研究するため昨年次長フェルナン・モウレット氏をブラジル、アルゼンチン及びウルグアイの諸國に派遣した。その結果モウレット氏により提出されたのが“QUELQUES ASPECTS SOCIAUX DU DEVELOPPEMENT PRESENT ET FUTUR DE L'ECONOMIE

BRESILIENNE. なる報告書である。彼は本書に於て先づブラジルの國土面積とその恵まれたる天然資源に就て述べ、それに比較せる現在の人口數、分布状態、増殖率、收容可能人口數推定を示し、人口問題に起因せる最近の農業工業界の特異なる現象を指摘し、社會問題として勞働者の雇傭條件、土地開發状況を檢討し、この國の經濟的現状はあたかも半世紀前の北米に酷似してゐるとて、政治經濟其他の方策にして誤たざれば近き將來世界の列強たり得る條件を具備せるものと認め、最後に移民問題に亘り、詳細なる檢討をなし、内政干渉に亘らざることに努めつゝブラジルのとるべき賢明なる方策を暗示してゐる。併しながら現在のブラジルに於ける移民政策の動きはモウレット氏の暗示し唱導する處とは却つて反對の原則に走りつゝある傾向を認む。

人口問題と生計費

彦根高等商業學校教授 經濟學博士 岡崎文規氏

倫理的立場から勤儉節約が説かれ、又物價高騰による生活不安が顯著である場合、國家は當面の問題として物價對策を講じた例はあるが、一般に各家庭の消費經濟に關しては、國家は何等の干渉も行はず、全く之を個人の自由に放任してゐる。しかも各家庭の生計費は國民の體位、出産率、壽命等と密接なる關係あるため、人口政策との關聯に於て、國家は各家庭の生計費に對しても國民的自覺を促すと同時に消費政策を樹立すべきである。

本邦勞働人口の推移

社會局技師 醫學博士 大西清治氏

近時重工業を中心として著しき發展を示せる我國產業界に於ける勞働人口は、其の量的方面に顯著なる推移を示せると共に、其の質的方面にも、我々の見逃し得ざる變化が現はれてゐる。演者は之等の點について少しく卑見を述べ、見ようと思ふ。

植民地再分割問題

外務省調査部 小田部謙一氏

- 一、植民地再分割論の擡頭せる理由
 - 1、獨逸
 - 2、伊太利
- 二、植民地無價値論と其の批判
- 三、「持てる國」及び聯盟の輿論
- 四、植民地再分割論と日本の立場

先づ植民地の再分割論が獨逸及び伊太利により其の經濟上の特殊事情に基き強く主張されるに至つた經路を述べ、次に所謂植民地が此等の國の不滿を鎮靜する丈けの價值あるかどうかを述べて見度いと思ふ。

第三に此等不滿足國の要求に對し「持てる國」ではどう考へてゐるか更に植民地及資源問題を扱ふ爲めに開催されたる聯盟の委員會では如何に此の問題を處理しつゝあるかを述べ最後に日本は如何なる立場を採るべきであるかを考へて見度いと思ふ。

華族に關する統計調査に就いて

柳澤統計研究所調査部長 阪 本 敦 氏

財團法人柳澤統計研究所に於て豫てより調査研究し居りたる華族の人口靜態及び動態統計に關する調査及び製表の顛末に就き報告し兼てその研究せし所の一斑を略述す。

エコロジイ 生態學と人口理論

東京市文書課 清 水 達 夫 氏

動植物集團と自然環境の聯關。

二、生物生態學と人類生態學 (Human Ecology)

生物生態學から何を社會科學に類推するか。

A、自然環境論としての人類生態學

B、共同體論としての人類生態學

三、從來の共同體論との比較

共生的構造 (Symbiotic Structure) と文化的上部構造 (Cultural Super Structure)

四、A、生態學的組織——農村社會學

B、生態學的過程——都市社會學

1、集中過程—分散過程

2、向心過程—離心過程

3、分離過程

4、侵入過程

5、繼生過程

五、人類生態學と人口理論

内地在住朝鮮人に就いて

内務省社會局囑託 佐々木 行雄氏

一、朝鮮人の内地渡航

1、内地渡航の沿革。

併合前—併合後

2、内地渡航に對する政策。

渡航事情—保護政策

二、内地在住朝鮮人の現狀

1、一般概況。

増加狀況—移動狀況—居住狀況—犯罪狀況

2、生活態様。

職業狀況—教育狀況—内地化狀況—風紀衛生狀況—救護狀況—信仰狀況

三、内地在住朝鮮人に關する諸問題

1、經濟上の問題。

勞働問題—失業問題—住宅問題

2、社會上の問題。

人口問題—融和問題—風紀衛生保安問題

3、政治上の問題。

參政權問題—兵役問題—教育問題—朝鮮統治に及ぼす影響

四、内地在住朝鮮人問題に對する當局の對策並に施設

1、沿革。

放任時代—取締時代—保護取締併用時代

2、對策の根本方針。

一視同仁——(同化の可能性の問題)

3、現行施設。

行政機關——民間團體(協和會——矯風會——諸團體)

五、今次事變と内地在住朝鮮人

1、事變中の影響。

思想上の影響——經濟上の影響——知識階級の問題

2、事變後の豫想。

滿洲移民地の地理學的諸問題

南滿洲鐵道株式會社總裁室弘報課

田口

稔氏

一、移民地の動向と不毛地の獲得

1、現在の移民地は多く東北滿洲に設定せられあるが、將來は中部滿洲其他に於て立地條件並治安良好なる地を選び移民誘致の上に安定性を與ふる必要あり。但し之が爲には實行上、官邊の特殊なる政策を要す。

2、移民地擴大に伴ひて、松花江、遼河沿岸其他の地域の濕原乾拓並に濱洲線東部、四洮線其他のアルカリ地帯の耕地化を一層研究實現せしむることを要す。

二、移民の生活改善

1、移民部落並民家に防風、風致等の目的を以て防風林の植栽を要す。民家は將來の建増を考慮して設計し、且

便所を屋内に設くる事。

2、食糧品は其土地の産物、例へば雉、鯉、ノロの如きを探り調理法を研究して日常之を食する習慣をつくる事
3、婦人の衣服は和服を全廢し風土に適する裁方を考究する事。

三、村落社會への要望

1、同縣人のみに依つて村を組織することは遂次廢し、全日本人の單位に於て村民を構成すべき事。

2、教育は日本流の學校教育方法を一擲し、移民地の實生活に即するものを獨創すべき事。従つて教科書も全然書改むべき事。

3、村長、教師、宗教家、醫師には高給を與へ其の支拂を履行し、優秀なる人材を求むべき事。特に村長、宗教家は年齢多き人物を要す。

4、警察權を確立し村内の風紀を肅正せしむる事。

人口膨脹と産業發展との相互關係と其限界

法政大學教授 經濟學博士 高 木 友 三 郎 氏

人口増加するが故に産業が發展し、産業が發展する故に人口が増加する、兩者の相互關係と其限界を中心とし之に聯關して、人口と資源生活標準並に生産力擴充の因果關係を論じて見たし。

徳川時代以前の人口の歴史的研究の困難

社會事業研究所 高橋 梵 仙氏

- 一、飛鳥時代以前の人口
- 二、飛鳥時代の人口
- 三、奈良時代の人口
- 四、平安時代の人口
- 五、鎌倉時代の人口
- 六、吉野、室町、安土桃山時代の人口
- 七、徳川時代以前の人口に就いて從來なされたる研究の誤謬と數量の觀念

北支の人口に就いて

宇都宮高等農林學校教授 高須 虎 六氏

報告内容

- 一、爰に言ふ北支の範圍

二、本研究の目標

- 1、北支人口の現状をその依存する農業状態に於て考察
- 2、北支經濟の開発はこの人口状態に如何なる變化を來すべきか
- 3、而して、夫れが我産業人口に及ぼすべき影響
- 3、北支の人口並に産業統計の不備と本研究の態度
- 四、北支各省の地域と人口、及びその自然的環境
- 五、北支各省の耕地面積と農家戸數並に農業人口の比
- 六、北支農民の農耕状態とその生活状態
- 七、北支經濟開發に豫期せらるゝ資源
 - 1、貿易關係に觀らるゝ北支の生産物
 - 2、石炭及棉花資源の豊富と纖維工業の勃興
- 八、北支農民の工業動員とその人口變化
- 九、我國産業人口に及ぼすべきその影響

維新前の人口調査に關する諸問題

東京市電氣局 徳田彦安氏

維新前の人口調査に關しては諸種の問題が存在した、例之、人口調査の目的、調査の客體、調査の様式、調査の時期と其頻度、人口調査に要せし費用等々に就いてみても、夫々其内に多くの問題を包藏してゐた。今之等の總てに互つて説明し度いのであるが、時間の關係上、之を許さざるを以て、右の内一、二に付其概略を述べることとする。

農村過剩人口對策

農村振興會理事長 上村藤若氏

一箇年百萬に垂んとする過剩人口の中、其七割以上は農村人口であり、これが對策としては殖民事業を始め凡ゆる角度より考究を要すること勿論にして左記二項の如きも亦これが解決策として最も重要な國策たらざるべからざることを確認し提唱するものである。

一、干拓事業

日本に於ける干拓事業の歴史と、オランダの實例に徴すれば、九州有明灣、八代灣、備前の兒島灣、伊勢灣、澄美

灣、東京灣等に於て數十萬町歩の耕地を得ること疑ひなし。

殊に朝鮮の全羅、忠清、京畿、黃海、平安各道の海岸に於ては、已に投ずる國費の額によりては百萬町歩以上の干拓をなし得べきことは明かなり。

湖沼に於ては琵琶湖、霞ヶ浦、濱名湖、宍道湖、印旛沼、手賀沼、八郎潟、小原原沼、其他に於て數十萬町歩の耕地を得ること難事にあらずとの概略意見の提唱。

二、高原開拓事業

日本は山岳重疊の國土であり、耕作地は國土の面積に比して僅かに一割六分に過ぎず世界の最下位にある、然しながら若し高原の開拓を行ひ、米のみに依存することなく玉蜀黍稗等を栽培して有畜農業を加味經營すれば優に現耕地面積に匹敵する約六百萬町歩を開發し耕地饑饉の日本に一大福音を齎すものなることの概略意見の提唱。

犯罪者の研究

東京帝國大學醫學部講師

吉 益 脩 夫 氏

我國に於ける現在の犯罪に就いての犯罪生物學的研究の結果を述べ、之と諸外國のそれとを比較し其對策に關する私見を述べんとす。

滿洲移民の基礎的調査研究

南滿洲鐵道株式會社 善 生 永 助 氏

一、調査研究機關

イ、既存調査機關と其の調査研究

ロ、既存試験研究機關と其の試験研究

二、移民部落（拓務移民、自由移民、安全農村、集團部落）

イ、移民部落の構成（1、村落形態 2、耕作種別 3、經營形態）

ロ、村落施設（1、民家及飲用水 2、公共施設 3、行政自治、組合事業）

三、農業經營

イ、作物別收支

ロ、經營別收支

ハ、農家經濟調査

四、人口現象（日本内地人、朝鮮人、及び漢人滿人等）

イ、移民の分布、定着、移動増加の調査研究

ロ、出生、死亡率、健康、體格、榮養、疾病並に地方病、傳染病の調査研究

ハ、移民の適性（民族、出身地、境遇等）調査研究

五、民族問題

イ、世界移植民史に於ける同化政策の失敗

ロ、帝國滿洲移民國策の大使命と民族問題解決策

ハ、朝鮮に於ける民族運動と國語政策の教訓

追加

ソヴェート・ロシアに於ける棄子の問題

佛教社會學院主幹 淺野眞氏

革命後の性的解放によつて性道德は墮落し、結婚及離婚の自由の結果、棄子の増加を來した。故にこれが對策は重要な問題となつた。その經過を報告せんとするものである。

凶作による榮養不給が罹災住民の体位に及ぼす影響

榮養研究所技師 原 徹 一氏

文化は開達し政徳は潤霑せる今日の聖代に於ては昔時の大寶、天平、養和、寛正、享保、天明、天保等の飢饉時に見たるが如く、餓死するもの限りなく路傍髑髏に滿つと云ふが如き慘狀を呈する事なく、凶作に由因して直接人口減を招來すること薄しと雖、これに基因する榮養の不適は住民の體力に深刻なる影響を及ぼすこと稀ならず。即ち常に凶作不作に脅威せらるる地域の住民は醫療衛生の不備と相俟ちて發育常に良好ならず、又凶作年出生の壯丁はその検査當時に於て成績不良なるを常とするが如き之なり。又昔時は凶作飢饉ある毎に必ず時疫の流行ありて餓死者よりもこの疫病による死者多きを例とせしが、醫療の進歩せる今日に於ては素より往時の如き慘狀を見ざるも未だ之が豫防に全きを期し難し。之榮養不給による抵抗力の消亡の影響大なるが爲なり。

演者は内務省の命により視察並に指導の爲昭和六年及九年兩度の凶作に罹災地東北及北海道地方に出張せし際の實地調査記録に基き榮養不給の体力に及ぼす實狀につき述べ併せて之が對策として榮養研究所佐伯所長の指示により實地に應用したる事項を論ぜんとす。

アメリカにおける人口動態の社會的構造

横浜市立横浜商業専門學校教授

早

瀬

利

雄氏

一、問題の意義（アメリカの政治と人口動態）

二、恐慌前後のアメリカ階級構成の統計的表示

三、社會經濟階級の膨脹における分化の諸要因

- (1) 避妊上の要因
- (2) 教育上の要因
- (3) 宗教上の要因
- (4) 所得上の要因
- (5) 政治上の要因
- (6) 其他の要因

榮養が動物の繁殖に及ぼす影響に就いて

榮養研究所 松室秀夫氏

母體の榮養状態が繁殖力に重要な影響を及ぼす事は佐伯博士の研究により明にせられたり。余は斯かる事實を實驗的に證明せんが爲め、白鼠を供試動物とし、之に合成飼料を給與し、種々の食品を補給して試験したる結果、動物の繁殖力は榮養の如何によりて左右せらるゝ事を確めたり。

榮養と妊産率並に子女の健康度の關係

榮養研究所長 醫學博士 佐伯 矩氏

母の榮養佳良なれば妊産率低く、不良なれば妊産率高し。又榮養佳良なるものゝ子女は健康なるも、不良なるものゝ子女は死亡率高し。死産並に乳兒の死亡率は母の榮養改善によりて顯著に防止するを得。又疾患無き母に反し、疾患例ば結核、梅毒に侵されたる母は、妊産率昇り、子女の死亡率亦高し。

季節的人口移動の二例

イ、越後の杜氏 ロ、咸北の越境耕作

東京高等師範學校教授 武 見 芳 二氏

イ、越後の杜氏

全國的に觀ても冬の農閑季を利用しての清酒醸造業勞務者の人口移動は最も顯著なものゝ一である。就中越後から出稼するものは數に於ても、其の分布に於ても有力である。越後杜氏の出身地と其の出稼先とを略述する。

ロ、咸北の越境耕作

農繁季に於ける出作であるが、圖們江を越えて、即ち國境を越えて、朝鮮側から滿洲國內に出作するもので、この意味に於て類例の乏しいものであり、注目に値するものである。江岸農民にとつては經濟的に極めて重要な問題である。

出席者名簿

(A、B、C順)

A

拓殖大學教授 阿部源一氏

帝國農會 青鹿四郎氏

內務技師 青木延春氏

京都帝國大學經濟學部 青盛和雄氏

東京帝國大學經濟學部教授 荒木光太郎氏

大阪商科大學教授 淺香未起氏

D

關西學院教授 大道安次郎氏

E

東京市教育局 遠藤盛氏

G

協調會常務理事 蒲生俊文氏

母性保護聯盟 五味百合子氏

大原社會問題研究所 後藤貞治氏

H

弘前高等學校教授 芳賀武雄氏

醫學博士 榮養研究所技師 原徹一氏

陸軍中將 東京私設社會事業 橋本勝太郎氏

聯盟理事 長 社會局 囑託 早崎八洲氏

橫濱市立商業專門學校教授 早瀬利雄氏

東京帝國大學文學部講師 林惠海氏

文部省圖書監修官	樋田豐太郎氏	東京市政調查會	猪間曠一氏
東亞調查會專任理事	平井三男氏	企畫院囑託	井上謙二氏
	保科正昭氏	商學博士 日本大學教授	井上貞藏氏
東京女子高等師範學校教授	富士德治郎氏	東京商科大學豫科教授	石田龍次郎氏
大阪商科大學教授	藤田敬三氏	都市計畫東京地方 委員會技師	石川榮耀氏
大阪朝日新聞社論說委員	藤田進一郎氏	東京府女子師範學校教諭	伊藤平氏
福岡縣海外協會	藤原茂氏	公爵 貴族院議員	岩倉具榮氏
中央社會事業協會	福山政一氏		

I

日本女子大學校教授	市村今朝藏氏	陸軍軍醫大尉陸軍省醫務局	賀川豐彥氏
早稻田大學教授	出井盛之氏	大阪帝國大學醫學部教授	梶浦源一氏
日本大學講師	飯田照夫氏	大阪府社會課	梶原三郎氏
企畫院囑託	稻葉秀三氏	東京帝國大學農學部講師	賀來才二郎氏
企畫院調查官	井口東輔氏	神戸商業大學助教授	神谷慶治氏

K

母性保護聯盟宣傳部長 金子しげり氏

東京市統計課 荻宿俊風氏

社會教育會理事 片岡重助氏

東洋經濟新報社 笠井秀夫氏

啓明會 笠森傳繁氏

中央社會事業協會 柏木太四郎氏

大東文化學院教授 加藤喜久雄氏

大阪市社會部 川上賢叟氏

慶應義塾大學醫學部助教授 川上理一氏

企畫院囑託 川崎巳三郎氏

京都市庶務部調查課 風早儀平氏

恩賜財團濟生會 紀本參次郎氏

富民協會 木村泰次郎氏

日本勞働科學研究所所員 桐原葆見氏

全國學農聯盟囑託 木內謙一氏

中央教化團體聯合會 古賀幾次郎氏

陸軍中將 帝國在鄉軍人會總務 小泉六一氏

明治大學教授 小島憲氏

東京市政調查會 幸島禮吉氏

文部省 京都帝國大學文學部 小牧實繁氏

東北帝國大學醫學部 近藤正二氏

內閣統計局 近藤常治氏

拓殖公論社 此經春也氏

金澤醫科大學教授 古屋芳雄氏

東京帝國大學文學部囑託 小山榮三氏

東京市社會局 古山利雄氏

法學博士 東京統計協會副會長 窪田靜太郎氏

黑野張良氏

M

三菱經濟研究所	前田	昭氏
協 會	前田	美 稻氏
ドクトル 勞働者診療所長	馬 島	佃 氏
陸軍主計少將 糧友會理事	丸 本	彰 造氏
大阪帝國大學醫學部	丸 山	博 氏
東京高等農林學校校長	松 岡	忠 一氏
小樽高等商業學校教授	三 木	直 枝氏
醫學博士 內務技師	南 亮	三 郎氏
企 畫 院 調 査 官	南 崎	雄 七氏
九州帝國大學教授	美 濃	口 時次郎氏
東京商工會議所調查課長	三 田	村 一 郎氏
中央教化團體聯合會主事	三 浦	一 氏
	宮 西	一 積氏

N

內閣東北局書記官	宮 脇	參 三氏
中央社會事業協會	水 蘆	紀 陸 郎氏
中央社會事業研究所	森 數	樹 氏
內閣統計局	森 岡	正 陽氏
中央社會事業協會	森 岡	正 陽氏
社會事業研究所	望 月	源 次氏
わかもこ本舖	望 月	源 次氏
經濟社會學博士	宗 藤	圭 三氏
同志社大學教授	村 島	鐵 男氏
日本醫科大學教授	村 島	鐵 男氏
協 會	村 山	重 忠氏
東京高等農林學校	永 井	威 三 郎氏
社會局技師	長 瀬	恒 藏氏
東京市職業紹介所	南 雲	利 章氏
海外移住組合聯合會	中 田	瑞 彦氏
三重高等農林學校教授	中 野	清 作氏

東京商科大學教授 中山伊知郎氏 東京市水産講習所 岡本清造氏

内閣統計局囑託 中山照夫氏 醫學博士わかもこ本舖 岡本卓也氏

企畫院囑託 伯爵 南澤辨次郎氏 經濟學博 岡崎文規氏

醫學博士 社會局技師 西野陸夫氏 東京工業大學教授 奧田寬太郎氏

早稻田大學教授 西野入德氏 醫學博士 社會局技師 大西清治氏

外務省囑託 野田良治氏 立命館大學教授 大野木克彥氏

東京帝國大學農學部助教授 野間海造氏 國勢研究會 越智元治氏

協 調 會 大 內 經 雄 氏

0

法政大學教授 大場實治氏 中央社會事業協會 賴順生氏

東京商科大學助教授 小田橋貞壽氏 社會事業研究所 賴順生氏

外務省調查部第二課 小田部謙一氏 醫學博士 東京市療養所 岡治道氏

醫學博士 東京市療養所 岡治道氏 醫學博士 榮養研究所長 佐伯矩氏

日伯中央協會主事 岡本和夫氏 醫學博士 榮養研究所長 佐伯矩氏

R

S

T

醫學博士 聖路加病院	齋 潔	藤氏	
陸軍步兵中佐	酒 葉	要氏	
柳澤統計研究所調查部長	阪 本	敦氏	南滿洲鐵道株式會社 總裁室弘報課
日本女子高等學院	坂 本 由五	郎氏	內閣統計局
社會局 囑託	佐 々 木 行	雄氏	經濟學博士 法政大學教授
農業教育研究會會長	佐 藤 寬	次氏	中央社會事業協會 社會事業研究所
石 卷 市 長	佐 藤 眞	平氏	衛生局 豫防課長
母性保護聯盟副委員長	千 本 木 道	子氏	協 調 會
全日本方面委員聯盟主事	紫 田 敬 次	郎氏	東京商工會議所調查課
東京市 文 書 課	清 水 達	夫氏	宇都宮高等農林學校教授
日本 大 學 講 師	志 村 茂	治氏	東京高等農林學校教授
早 稻 田 大 學 教 授	末 高	信氏	關西學院大學教授
東京商科大學教授	杉 本 榮	一氏	九州帝國大學教授
醫學博士 榮養研究所技師	杉 本 好	一氏	東北帝國大學法文學部講師
協 調 會	鈴 木 規	一氏	
			田 中 館 秀 三氏
			田 中 義 磨氏
			田 邊 壽 利氏
			田 村 市 郎氏
			高 山 茂 七 郎氏
			高 須 虎 六氏
			高 瀨 千 波氏
			高 岡 實 氏
			高 野 六 郎氏
			高 橋 梵 仙氏
			高 木 友 三 郎氏
			高 田 太 一氏
			田 口 稔 氏

文學博士 建部 遜 吾氏

海外移住組合聯合會主事 千浦 節氏

救世軍社會部長 富樫 金 作氏

東京市電氣局庶務課 德田 彦 安氏

辯護士 德村 謙 吉氏

東京市統計課 豐浦 淺 吉氏

信濃教育會 土屋 弼 太郎氏

全日本方面委員聯盟書記 土屋 勇氏

U

東京文理科大學助教授 內田 寬 一氏

前橋商工會議所理事 內田 親 章氏

農村振興會理事 上村 藤 若氏

辨理士 請川 健 藏氏

W

鳥取高等農林學校教授 若木 禮氏

東京帝國大學經濟學部 渡邊 信 一氏

Y

東京府立第八高等女學校 矢島 仁 吉氏

元大阪府社會部長 山口 正氏

企畫院 囑託 山本 鉞 治氏

東京高等師範學校 附屬中學 山本 幸 雄氏

京都帝國大學農學部 山崎 直 樹氏

東京商業師範學校教授 山崎 犀 二氏

東京女子高等師範學校教授 山室 周 平氏

自由學園 米林 富 男氏

東京帝國大學文學部 吉田 秀 夫氏

東京帝國大學醫學部講師 吉益脩夫氏
印刷出版業 吉武源五郎氏

Z

南滿洲鐵道株式會社 善生永助氏
事業部資料室

追記

佛教社會學院主幹 淺野研眞氏

大阪商科大學 金谷重義氏

栃木縣統計課長 加地成雄氏
地方統計主事

和歌山高等商業學校教授 金持一郎氏

榮養研究所 武見芳二氏

東京高等師範學校教授 松室秀夫氏

東京帝國大學教授 宗正雄氏

關西大學教授 中村良之助氏

農政團體聯合會 中山正康氏
わかもこ本舗 岡部連氏
農政團體聯合會 白石貞治氏
法政大學文學部講師 留岡清男氏
大阪都市協會理事 瀧山良一氏
農政團體聯合會 若尾金造氏
產業組合中央會主事補 山口左右平氏

